4）Outcome と落とし所を考える

[1] 京都市立病院　感染症内科

○山本 舜悟 [1]

臨床検査は何のために存在するのでしょうか？当然、患者の診療に役立てるために存在します。それでは、患者の診療に役立てるためには何が必要でしょうか？この世に完璧な検査など存在しません。どんな検査にも利点と欠点があります。今までわからなかったことがわかるような新しく魅力的な検査があったとしても、必ず欠点はあるはずです。検査を使いこなすためには欠点についても知っておく必要があります。患者の身体的、精神的、金銭的負担はどの程度のものか。物事の良い面だけに注目して許されるのはアマチュアだけです。プロであれば、欠点にも目を向けておく必要があります。ともすると「その検査で何がわかるのか」に注目が集まりがちですが、「その検査で何がわからないか」を知っておくことも同じように大切なのです。今日では電子カルテを採用する病院が増えてきました。ワンクリックでいろいろな検査をオーダーできてしまうので、あまり深く考えずにセット検査をしてしまう医師も少なくありません。これは大いに反省するべき点です。また、検査結果によって診療行動が変わらないものについても慎むべきです。不要な検査をなるべくオーダーせず、必要な検査に臨床検査技師が十分な労力を注ぎ込めるように配慮するべきです。ある臨床検査の結果が正しいかどうかはどうやったらわかるでしょうか？これは検査室の中にいては決して分からないことです。何が正しいかは患者の中に答えがあります。患者の訴えを理解するのは、病歴、診察所見、検査所見といったあらゆる手がかりを集め、すべてを同等に使いこなす必要があります。しかし、数多くある臨床検査すべてに臨床医が精通することは現実的には難しいです。そこで、臨床検査のプロである臨床検査技師と臨床医が協調して働くことが必要になります。そうして一緒に Outcome と落とし所を考えていきましょう。